

100年企業を訪ねて

～長寿企業のたゆまぬ努力とその魅力に迫る～

とうぎよく
File 07 / (株)東玉

ひな人形・五月人形、ランドセル、そして小児科 子どもの幸せと健やかな成長に代々尽くして

とつか だいすけ
戸塚 大介

(株)東玉 代表取締役社長

1971年、さいたま市岩槻区生まれ。桑沢デザイン研究所卒業後、(株)NHKアート入社。独立してフリーデザイナーとして活動した後、2005年に(株)東玉入社。2017年、7代目の代表取締役役に就任。現在岩槻人形協同組合理事をはじめ、業界の要職を歴任。

とつか たかし
戸塚 隆

(株)東玉 代表取締役会長

1940年、さいたま市岩槻区生まれ。幼い頃から祖父・巖氏(東玉4代目)の薫陶を受け、1963年に慶応義塾大学卒業後、(株)東玉入社。1988年代表取締役就任。2017年会長就任。過去、日本人形協会の会長を務め岩槻の地域振興および日本文化の普及に献身し続けている。



日光御成街道の宿場町として栄えた岩槻は、日本屈指の「人形のまち」として知られる。(株)東玉は、駅からすぐの場所に大型店舗と工房を構え、人形作りと販売を手掛けている老舗だ。子どもの成長を見守る家業への誇りと、伝統と職人の技を次代につなぐための挑戦を、6代目・戸塚隆会長と7代目・戸塚大介社長に伺った。

判断で、現在の東玉の礎を築いてくれました。

そんな巖の姿を見て育った5代目・健蔵と6代目・隆は、自社だけでなく人形のまち・岩槻の地域振興に、熱心に取り組みました。人形への愛と文化を語る東玉・人形の博物館や、技術をつなぎ、広める東玉人形学院の設立。現在岩槻地区最大の行事となった「まちかど雛めぐり」の立ち上げやさいたま市岩槻人形博物館の開設にも深く関わっています。

医師兼人形師。異色の初代に下賜された栄誉の称号

岩槻で人形作りが盛んになったきっかけは、日光東照宮造営のために招かれた職人たちが、日光街道沿いの宿場町に住み着いたためといわれます。

当社の創業者である戸塚隆軒は、そんな岩槻の町で江戸末期である嘉永期に医者をしていました。患者を選ばず親身になってくれる名医と評判だった彼は、趣味の人形作りでも玄人はだしかったようで、自作の人形を岩槻のお殿様に献上したところ大層気に入られ「西国、京都の人形師にも劣らぬ腕前。東国における人形作りの王となれ」と『東玉』の号を下賜されました。多くの名工がいる町で恐れ多いと固辞したものの、お殿様にいただいたありがたい名。そこで王に、(てん)を加えて「東玉」を名乗ることにしたのです。

五節句の普及、ランドセル販売。新たな挑戦が絶好調

少子化、核家族化、都市型住宅へのシフトと、近年、人形業界を取りまく社会環境は大きく変化しました。170年にわたって人形と共に歩んできた老舗の7代目として、この時代に、いかにして子どもたちの幸せと健やかな成長に寄り添い、豊かな文化と地域産業を支え続けるかと考えて、新たなチャレンジも行っています。



先代・隆会長が注力しているのは「五節句」の振興です。ひな祭り、端午の節句に、人日(1月7日)、七夕、重陽(9月9日)を加え、季節ごとの日本文化を世界にアピールしています。また2018年よりスタートしたのが、ランドセルの制作と販売です。華やかなショールームで、節句人形とランドセルを展示販売するこのスタイルは、子育てファミリーから大好評を博しています。



お内裏様が赤ちゃんを抱く子育て雛など、コンパクトで個性的なオリジナル雛が好評。ランドセル事業は同社の新たな柱となった。

中興の祖は四代目。岩槻駅前大きく事業が発展

以後も代々、本業の医師の傍ら人形師を続けていた血筋が、いよいよ人形作りを家業とするようになったのは、4代目・戸塚巖の代です。巖は、小学校を出るとすぐ12才で年季奉行に地元や東京の人形卸店で修行を積み、若干20歳で独立した優れた職人であると共に商才豊かな人でもありました。

関東大震災、戦争と難事が続いた時代でしたが、被災した家庭が新たに人形を求めると読み切って職人たちを守り育て、大繁盛したほか、岩槻駅前に出店するなどの思いきった経営



4代目が駅前に立ち上げた旧店舗。現在は店舗・工房を併設した岩槻の名所となっている。

ちなみに私は次男なのですが、長兄は小児科医となり、本店向かいの東玉ビルで開業しております。どこまでもお子さまの幸せと健やかな成長に尽くす。それが戸塚家の歩む道のようです。